

はじめに

本手順書は「Linux用常駐型インベントリ収集エージェント（以下、Macエージェント）」を管理対象PCにセットアップする手順です。

1.動作環境

	項目	仕様	備考
1	OS	Red Hat Enterprise Linux 6、7、8 CentOS 6、7、8	各バージョンごとにインストーラ(rpmパッケージ)が異なります。
2	メモリー	512MB以上	
4	HDD	10MB以上の空き容量(本体プログラム、ログファイル用)	
5	ネットワーク通信	管理サーバとhttpまたはhttps通信が行える必要があります。	

2.用語の説明

	本手順書での用語	説明	備考
1	管理対象Linux	エージェントをインストールしインベントリ情報収集を行うLinuxマシン	
2	Linuxエージェント	自動でインベントリ収集を行う、管理対象PCにインストールする常駐型プログラム	
3	管理サーバ	エージェントが収集したインベントリ情報のアップロード先サーバ (LogVillageマネージャ)	

3.インストールに必要な依存パッケージ

	区分	内容	備考
1	依存パッケージ	1) libboost (全バージョン) 2) libboost_filesystem (全バージョン) 3) libboost_thread (Red Hat 7,8、CentOS 7,8) 4) libboost_regex (Red Hat 6,7、CentOS 6,7) 5) libpugixml (全バージョン) 6) libcurl (全バージョン)	
2	パッケージのインストール方法		
	Reh Hat 8、CentOS 8	<pre>sudo yum install boost-file-system sudo yum install boost-thread sudo yum install libcurl sudo yum install https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-8.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	<ul style="list-style-type: none"> boost-xxxのバージョンは1.66となります。
	Reh Hat 7、CentOS 7	<pre>sudo yum install boost-file-system sudo yum install boost-thread sudo yum install boost-regex sudo yum install libcurl sudo yum install https://dl.fedoraproject.org/pub/epel/epel-release-latest-7.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	<ul style="list-style-type: none"> boost-xxxのバージョンは1.53となります。
	Reh Hat 6、CentOS 6	<pre>sudo yum install boost-file-system sudo yum install boost-regex sudo yum install libcurl sudo yum install https://archives.fedoraproject.org/pub/archive/epel/6/x86_64/epel-release-6-8.noarch.rpm sudo yum install pugixml</pre>	<ul style="list-style-type: none"> boost-xxxのバージョンは1.41となります。

4.インベントリ収集エージェントのインストール手順

	区分	内容	備考
1	Linuxにログイン	sudo権限を持つアカウントでログイン	
2	インストールパッケージを配置	各対応OSバージョンのrpmパッケージを管理対象Linuxの任意の場所に配置 (RedHat 8、CentOS 8) lvinventory-rh8-1.0.0-1.x86_64.rpm (RedHat 7、CentOS 7) lvinventory-rh7-1.0.0-1.x86_64.rpm (RedHat 6、CentOS 6) lvinventory-rh6-1.0.0-1.x86_64.rpm	
3	インストール	以下のコマンドを実行 sudo rpm -ivh [各対応OSバージョンのrpmパッケージ名].rpm	
4	config設定	<p>以下を編集</p> <p>■ファイル名：/usr/local/share/lvinventory/config.ini</p> <p>■編集内容：</p> <p><Server>xxx.xxx.xxx.xxx</Server> ：管理サーバのIPアドレス</p> <hr/> <p><Port>80</Port> ：通信ポート番号（http=80、https=443）</p> <hr/> <p><SSL>0</SSL> ：SSL通信の利用（利用しない=0、利用する=1）</p> <hr/> <p><Username></Username> ：LVアクセスアカウント名</p> <hr/> <p><Password></Password> ：LVアクセスアカウントのパスワード</p>	複数台数にインストールする場合、設定済みconfig.iniを上書きコピーでも問題ございません。

5	定期実行設定	crontabを設定 ①以下のコマンドを実行 sudo crontab -e ②以下を追加（3時間ごとに実行の場合） 0 */3 * * * /usr/local/bin/lvinventory	
6	インベントリ取得確認	管理サーバにてインベントリ情報収集確認 ・（管理画面）資産管理→ハードウェア台帳画面にて、当該管理対象Linuxのインベントリ情報が表示されることを確認	

5.インベントリ収集エージェントのアンインストール手順

	区分	内容	備考
1	アンインストール	以下のコマンドを実行 sudo dpkg -r lvinventory	

6.インベントリ収集エージェントの強制実行手順

	区分	内容	備考
1	強制実行	以下のコマンドを実行 sudo /usr/local/bin/lvinventory	

7.インベントリ収集エージェントの動作ログ

	区分	内容	備考
1	動作ログの出力場所	/var/tmp/lvinventory/log/	